


(シラバスNo.15)

科目名	学校教育相談特論	科目コード	17P-B2	
			21P-B2	
	科目群名	専門科目 (学校教育領域)		
	Advanced Seminar on School Education Counseling	必修/選択	選択	
		教職	小・中・高	
担当教員	大野 精一	単位数	2	

【授業概要】

小・中・高等学校で教諭・養護教諭が中心になって行われている教育相談活動（学校教育相談）に焦点を合わせ、理論や歴史、スキル等について実践的な理解を深める。特に心理社会面や健康面のみならず進路面や学習面への効果的な援助や、スクールカウンセラーを含む校内協働体制、校外専門機関との連携等のあり方を実践的に追究し、このことを通して教職等に携わる高度の専門職業人としての高い倫理観や独自で創造的な判断力を養う。またアメリカやヨーロッパ、東アジア等のスクールカウンセリング実践を紹介し、日本の学校教育相談の特徴や今後の展望について比較的に考えることを通して国際的な視野を身につける。各授業回において適宜事例を提示し、相互の問題提起や議論等を行い理解を深めていく。授業内容等については受講者の希望等に即して重点化し実践的なスキル等にもふれるが、全体を通して授業計画にある内容等を講ずる。

【授業の到達目標】

本授業では小中高校生に対する効果的な教育相談を行うために必要な理論及び方法を実践的に理解することを目標としている。そのために教育相談に関する歴史や各国での実践、さらに各種の理論等を広く取り上げるとともに、児童生徒の心理社会面や健康面、進路面学習面への指導援助を具体的かつ総合的・統合的に展開する方法等を習得する。

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴>（主に実施に◎、実施に○を付けてください）

形態	実施	具体的に実施すること
講義	○	各授業回の議論に必要な知識・情報等について講義
グループワーク・質疑	◎	受講者全員による各授業回テーマの議論
演習		
プレゼンテーション	○	各授業回で受講者による発表
制作		
その他 ( )		

【授業計画】

回	内 容
1	イントロダクション
2	日本における学校教育相談の歴史と展望
3	アメリカを中心とする諸外国のスクールカウンセリングの歴史と実践
4	学校教育相談と教育相談、スクールカウンセリング、カウンセリングとの異同と区分け
5	学校教育相談と生徒指導、特別支援教育
6	学校教育相談と学校心理学（学校心理士）
7	学校教育相談と発達心理学、コミュニティ心理学
8	学校教育相談と臨床心理学、心理教育的アセスメント
9	危機介入の理論と実際
10	コンサルテーションの理論と実際

11	児童生徒の心理社会面への指導援助のスキル
12	児童生徒の健康面への指導援助のスキル
13	児童生徒の進路面への指導援助のスキル
14	児童生徒の学習面への指導援助のスキル
15	学校内での協働体制や学校外での専門機関等との連携
試験	
【履修上にあたっての準備】 授業内容に関わる受講者自身の体験・経験について整理しておくこと。	
【授業外学修（予習・復習）】 各授業回に関するテキストの当該箇所を精読し、各受講生に指定された課題発表の準備をすること。各授業回の発表等につき各受講生の課題発表や課題レポート作成等の資料等としてまとめておくこと。	
【評価方法】 試験（50%）、課題発表とそのまとめの提出（30%）、受講態度（質疑応答等の積極性など）（20%）で判定する。	
【教科書】 大野精一編著（2017）『教師・保育者のための教育相談』萌文書林 大野精一作成・授業用資料集（PDF 版配付）	
【参考図書】 大野精一（1996 Kindle 版 2017）『学校教育相談—理論化の試み』ほんの森出版 大野精一（1997 Kindle版2017）『学校教育相談—具体化の試み』ほんの森出版 大野精一・藤原忠雄編著（2018）『学校教育相談の理論と実践—学校教育相談の展開史、隣接領域の動向、実践を踏まえた将来展望』あいり出版 C・キャンベル、C・ダヒア著（中野良顯訳）『スクールカウンセリングスタンダード—アメリカのスクールカウンセリングプログラム国家基準』2000 年刊、図書文化／C・J・ジェルソー、B・R・フリッツ『カウンセリング心理学』2007 年刊、ブレイン出版 その他は本授業指定の Google Drive で参考書・参考資料等につき指示する。	